積丹町敬老会

～564名の長寿を祝福～

高齢者の方々の長寿と健康を祝う「積丹町敬老会」（鎌田淳史実行委員長）が9月19日、町総合文化センターで華やかに開催されました。

今年の敬老対象者は、昭和19年9月30日以前に生まれた75歳以上の方々。今回は新たに34名が加わり、町全体では564名が対象者となり、この日は96名が出席しました。

今年88歳の米寿を迎えられた17名のうち、出席された4名の方々に松井町長から祝品が手渡され、長い人生の節目を祝いました。

祝宴では、びくに保育所の園児による遊戯、婦人会の方々による歌や舞踊、敬老者自身によるアトラクションも披露され、会場は拍手や歓声が響き渡り、大いに盛り上がりました。

出席者の方々は、友人とのつかの間の歓談と交流の時間を楽しみ、再会を約束していました。

町内の最長寿者は99歳、大堀イチさん（日司町）、当日参加の最長寿者は94歳の加藤傑貫さん（幌武意町）でした。

皆さんの末永いご長寿をお祈りします。

米寿の**増田靜江さん**（美国町：写真左）、**川村良子さん**（美国町：写真右）に祝品を贈呈。

後志身障者福祉大会&スポーツ大会
障がい者の「社会参加」を地域ぐるみで！

後志地区身体障害者福祉協会が主催する、『第56回後志身体障害者福祉大会及び第49回後志身体障害者スポーツ大会』が9月3日、B&G海洋センターで行われ、213名の会員が参加しました。

福祉大会では、長年、障がい者の自立更生援護者や実践者の方々の表彰、北海道聴覚障がい者情報センター（札幌市）に勤務し、手話通訳者の伊藤喜幸氏の、『コーダとして育って』と題した講演がありました。

「コーダ」とは、耳が聞こえない両親を持つということで、コーダとして育った自身の体験談を手話を交えながら伝え、参加者は真剣に聞き入っていました。

また午後からは、スポーツ大会が行われ、「輪投げ競走」などの個人種目のほか、町村対抗の「玉入れ」や「お玉リレー」などの団体種目も行われました。

当町は、14町村中7位という結果を収め、出場した9名の会員は、一生懸命競技に挑戦し、他町村の参加者との交流を深めていました。

～子どもたちに「第三の居場所」を～

B＆G財団から建設費助成決定書

9月2日、『「第三の居場所」助成決定書授与式』が総合文化センターで行われ、議員や教育委員など多くの関係者が出席する中、建物の建設費や今後3年間の運営費として、総額9，000万円を町に助成する決定通知書が菅原悟志B＆G財団理事長（東京都）から松井町長へ手渡されました。

「第三の居場所」とは、B＆G財団と日本財団が様々な困難な状況にある子どもたちの支援対策として、全国100カ所の設置を目指しているプロジェクトで、道内では上川管内東神楽町と当町の2町で3カ所目です。

町では、平成27年度から「海洋センターを活用した地域コミュニティの再生に関するモデル事業」を実施。平成29年度からは、「放課後児童健全育成事業」を海洋センターを拠点に進めています。

新たに建設される「第三の居場所」は、放課後の児童が安心・安全に過ごせる場所、基礎的な生活や学習習慣を身に付ける当町の新たな子育て支援の場として幅広く活用していきます。

菅原理事長からは、「全国のモデルとなる積丹町らしい子育て支援の拠点として活用していただきたい。」と期待の挨拶がありました。

建物はB＆G海洋センターの前庭に建設され、来年4月からの利用を目指しています。

▲菅原B＆G財団理事長から助成決定書を授与

－北星学園大学・明治学院大学・北海道教育大学釧路校－

“観光・介護・教育”など 積丹で学ぶ！

9月12日から15日の4日間、**北星学園大学**（札幌市）と**明治学院大学**（東京都港区）の学生14名（教員3名）が、「実地調査」で当町を訪れました。

学生それぞれがテーマを決め、「ゆうるり」の施設や介護現場の実態を学んだほか、神威岬や水中展望船で、事業者や観光客への聞き取り調査を行うなど、当町の観光業や介護福祉を学んでいました。

また、8月26日から30日の5日間には、**北海道教育大学釧路校**の学生7名が小規模校の複式教育視察に訪れ、町内の小学校でのＩＣＴ授業や複式授業などを視察したほか、8月28日に行われた町内小学校陸上競技大会の運営にも携わるなど、児童や教職員との交流も深めました。

◀町の財政を学ぶ、北星学園大学と明治学院大学の学生

◀日司小学校で複式授業の視察をする、道教育大釧路校の学生